

## 藏内会長インタビュー記事の新聞掲載

前号の本誌第77巻5号巻頭言に掲載のとおり、本会の藏内勇夫会長が令和8年（2026年）に世界獣医師会会長に就任する。これについて、今般産経新聞社からインタビューを受け、その様子が紙面及びWebページに掲載されたのでここに紹介する。

## 日本人初の世界獣医師会会長へ 藏内勇夫氏 「ワンヘルス」の グローバルスタンダードが目標

日本人初の世界獣医師会（WVA）の会長就任が決まった自民党の藏内勇夫福岡県議（70）＝写真＝が産経新聞のインタビューに応じ、「人の健康、動物の健康、環境の健全性を1つの健康と捉え、一体的に守るワンヘルスの考え方を世界に浸透させたい」と抱負を語った。人獣共通の感染症対策を強化するため、アジア獣医師会連合（FAVA）とアジア大洋州医師会連合の連携に関する基本合意を8月に結ぶ方針も明らかにした。（千田恒弥）



藏内勇夫（くらうち・いさお）昭和28年生まれ、福岡県出身。54年3月に日大農獣医学部獣医学科卒業後、臨床獣医師。55年7月から国会議員秘書を経て62年4月に福岡県議会議員に初当選し、現在10期目。平成13年5月に福岡県議会議長に就任、22年3月に九大院博士課程修了。自民党福岡県連常任相談役のほか、日本獣医師会、アジア獣医師会連合の会長を務めている。

WVAは米国やスペイン、日本など70カ国・地域が加盟する団体で、会長選では藏内氏を含む4人が立候補した。藏内氏は加盟団体の約7割の得票を集めて次期会長に選ばれた。

会長任期は令和8年から2年間。藏内氏は現在、FAVAと日本獣医師会の会長も兼務しており、出馬経緯について「『FAVAで進めてきたワンヘルスを世界に広めるべきだ』との声があり、多くの仲間から推薦された」という。

藏内氏は「今、地球は温暖化や環境破壊などで悲

鳴を上げている。人が健康に暮らすには動物、そして地球も健康でなければならない。こうした課題を解決するのがワンヘルスであり、この実践を通して美しい地球を次世代に引き継いでいく必要がある」と述べた。

その上で「ワンヘルスのグローバル・スタンダード化に寄与するのが、2年12月に成立した福岡県ワンヘルス推進基本条例で示した考え方になる」と説明した。同条例では①人獣共通の感染症対策 ②薬剤耐性菌対策 ③人の健康 ④動物の健康 ⑤地球

の健康（環境保全）⑥共生社会づくり—の6つの課題に対して基本方針を設定し、3年4月に県は実行計画を策定した。

現在、福岡県ではワンヘルスの考え方に沿って生産販売される農林水産物や加工品の認証制度や小中高校でのワンヘルス教育などを進めており、同じような取り組みを世界各国・地域で実践する必要があるとの認識を示した。

全世界で猛威を振るった新型コロナウイルス禍について「昔からパンデミックは人間社会を変える大きな原動力になってきた。新型コロナを経験したわれわれは、ワンヘルスという生き方を受け入れ、実践することで大きく進化するだろう」と語った。

人獣共通の感染症は人の感染症の約6割を占めるといわれており、感染源と感染経路、病原体が侵入する宿主の3つの要因への対策が急務となっている。「新型コロナでは国と国の情報共有がスムーズに行かなかった。こうした反省点を生かし、世界の研究者らが感染症関連の情報を共有できるシステム

の構築を急ぐべきだ」と次のパンデミックに備えた体制整備の必要性を訴えた。

その際、「地方と国、国際機関の相互連携が重要になる」と強調し、現在、福岡県みやま市に建設している人と動物、環境に関する一体的な試験や検査・研究を行う「福岡県ワンヘルスセンター」がその一角を担うとした。「福岡県は国に先駆けて、人と動物、環境の保健衛生を一元的に担う態勢を整えている。国際的な研究機関をわが県に誘致し、次の感染症に備えたい」と話した。

また、日本人初のWVAの会長として「手洗い・うがいといった日本式の感染症対策を世界に根付かせたい」とも語った。世界保健機関（WHO）との連携強化にも意欲を見せた。

「今、人類の生き方を変えるターニングポイントに差し掛かっており、その鍵となるのがワンヘルスだ。持続可能で健康な地球を次世代に引き継ぐため、責務を果たしていきたい」と強調した。

産経ニュース 令和6年5月13日配信

20240510 産経新聞

# ワンヘルス世界に浸透 感染症対策強化へ国際連携

## 日本人初 世界獣医師会会長へ 蔵内勇夫・福岡県議に聞く



日本人初の世界獣医師会（WVA）の会長職に就いた自民党の蔵内勇夫福岡県議（70）が産経新聞のインタビューに応じ、「人の健康、動物の健康、環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的にワンヘルスの考え方を世界に浸透させたい」と抱負を語った。人獣共通の感染症対策を強化するため、アジア獣医師会連合（FAVA）やシニア洋州獣医師会連合（SOPAV）の連携を基本目標を8月に結ぶ方針を明らかにした。宇田恒彦

WVAは本場でペイ、進められ、ワンヘルス推進の中心に行動している。WVAは、人と動物の健康、環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的にワンヘルスの考え方を世界に浸透させたい」と抱負を語った。人獣共通の感染症対策を強化するため、アジア獣医師会連合（FAVA）やシニア洋州獣医師会連合（SOPAV）の連携を基本目標を8月に結ぶ方針を明らかにした。宇田恒彦

蔵内勇夫（くらうち・いさお）昭和28年生まれ、福岡県出身。54年3月に日大獣医学部獣医学科卒業後、臨床獣医師。55年7月から国会議員秘書。62年4月に福岡県議会議員に初当選し、現在10期目。平成13年5月に福岡県議会議長に就任、22年3月に九州大学名誉教授。自民党福岡県連帯相相談役のほか、日本獣医師会、アジア獣医師会連合の会長を務めている。

蔵内議員は、世界で猛威を振るった新型コロナウイルス禍は、人と動物の健康、環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的にワンヘルスの考え方を世界に浸透させたい」と抱負を語った。人獣共通の感染症対策を強化するため、アジア獣医師会連合（FAVA）やシニア洋州獣医師会連合（SOPAV）の連携を基本目標を8月に結ぶ方針を明らかにした。宇田恒彦

蔵内議員は、世界で猛威を振るった新型コロナウイルス禍は、人と動物の健康、環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的にワンヘルスの考え方を世界に浸透させたい」と抱負を語った。人獣共通の感染症対策を強化するため、アジア獣医師会連合（FAVA）やシニア洋州獣医師会連合（SOPAV）の連携を基本目標を8月に結ぶ方針を明らかにした。宇田恒彦

蔵内議員は、世界で猛威を振るった新型コロナウイルス禍は、人と動物の健康、環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的にワンヘルスの考え方を世界に浸透させたい」と抱負を語った。人獣共通の感染症対策を強化するため、アジア獣医師会連合（FAVA）やシニア洋州獣医師会連合（SOPAV）の連携を基本目標を8月に結ぶ方針を明らかにした。宇田恒彦

産経新聞  
(伊賀版、愛媛版、岡山版、香川版、九州山口版、高知版、山陰版、徳島版、広島版、福井版、三重版)  
令和6年5月10日  
朝刊に掲載

※無断転載不可